

「日々の理科」(第 4100 号) 2025, 10, 30

「石神井川の河川争奪 (最終回)」

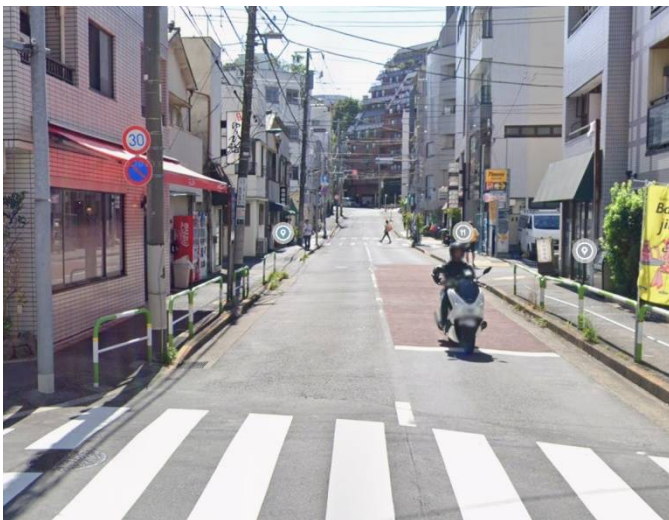
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

谷田川(古石神井川)がつくった「浸食谷」は、浅く段丘崖の傾斜もゆるやかです。そのことは、この写真を見るとよくわかります。



これは谷田川(古石神井川)の「跡地」に敷かれた「谷田橋通り」のガードです。上の線路は山手線で、田端駅と駒込駅の間にあります。鉄道は勾配を嫌うので、台地は「掘割」で、谷は「高架や橋」で乗り切ります。この谷田川跡の谷も高架と架道橋で跨いでいますが、谷の深さが浅いので、このような非常に低いガードなのです。当然大型車は通れません。

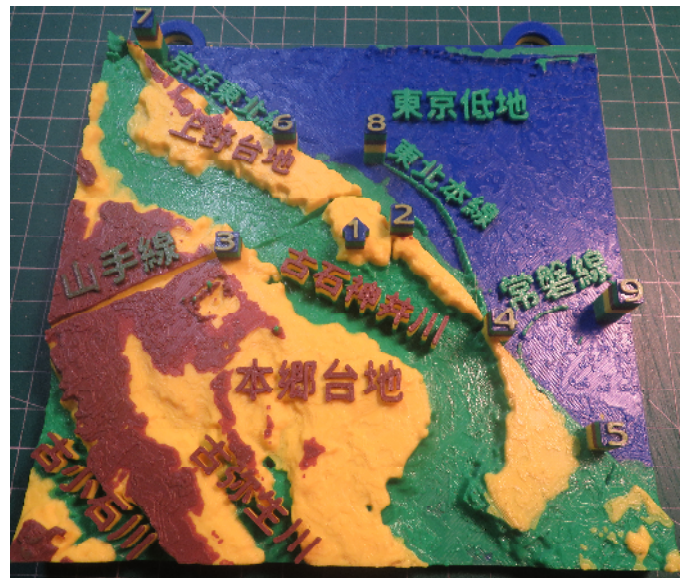


(グーグルマップ写真)

この山手線ガード付近も、左右どちらを見てもゆるやかな上り坂になっていて、一応「谷底」の地形であることがわかります。水は低いほうに流れるので、いくら浅い谷でも、やはり水害のリスクはあるでしょう。



田端駅に近い場所には「谷田橋」という交差点があります。角には「谷田橋薬局」というものもあります。ここにも以前は実際に橋が架かっていました。



(国土地理院データをもとに、田中製作)

谷田川(古石神井川)の地形は、3Dプリンターで再現すると、非常によくわかります。模型の青い部分は「東京低地」で、縄文海進の時代にはほとんど海でした。①は模型をさしあげた「田端小学校」です。⑤日暮里駅～④西日暮里駅～②田端駅～⑥上中里駅～⑦王子駅あたりは、かつて海岸線でした。⑧尾久駅、⑨三河島駅は海の中、③駒込駅は武蔵野台地にあります。上野台地と本郷台地の間に、蛇行する谷田川(古石神井川)の浸食谷(緑色の部分)が存在することがはっきりとわかります。谷の終点は「不忍池」です。

この「田端立体模型」と「大田区馬込立体模型」の2点は、JR東日本の「トランヴェール 11月号」の「文士村特集」で紹介されています。JR東日本の新幹線座席から無料で持ち帰れますので、11月中にJR東日本の新幹線に乗られたら、是非ご覧ください。